

神の国の宴会①謙遜

ルカの福音書14章7-11節
2013,2,3 HKJCF

I 概観

- 序)①パリサイ派の宴会②安息日問題
③神の国の宴会の原則(14:7-24)
- | | |
|--------------------|------|
| 1、宴会のたとえ①席次 | 7-10 |
| 2、神の国の原則①謙遜(1),(2) | 11 |
| 3、適用 | |

II 宴会のたとえ①席次

- 1、上座を選ぶ人々 プライドと欲
 - 2、社会生活の心得 ユダヤ人↔日本人
 - 3、神の国の宴会の原則①謙遜
- ⇒謙遜は人間関係・社会生活のルールと言うより、神の国の本質

III 神の国の原則①謙遜(1)

- 1、謙遜の本質:愛・実践的信仰・祝福
 - 2、謙遜への誤解:劣等感・罪責感・偽善・品性の訓練・良い自我で可能 →抑圧・傲慢・怒り・心の固さ・み心からズレ
 - 3、謙遜の定義:「キリストの愛と恵みに圧倒され、受けるにふさわしくない自己を認識し、自我が砕かれ、その死を受け入れ、聖霊に満たされ、感謝の中に主への明け渡しを求め続け、神と人に仕えること」
- 参)モーセ・エレミヤ・ダビデ・パウロ・ペテロ等 真の信仰者達 [コリ13:4-8,ルカ7:9]

III 神の国の原則①謙遜(2)

- 1、謙遜の祝福:天と地の祝福 マタイ5:3,5
 - 2、中年の霊的危機:傲慢(ダビデVS諸王)
- ①初めの愛と恵みから離れる: IIサム12
②業績を誇り、ビジョンを失う: IIサム24
③神と人に仕えず、利用する: IIサム23
- ⇒謙遜であり続ける秘訣:主との交わり
- 3、謙遜の模範:主ご自身 ピリピ2:6-11

IV 適用

- 1、謙遜とは①キリストの愛を感謝する者の神と人に仕える生き方 品性でも、自我の業でもない 内住のキリストのみ業
- 2、謙遜とは②私の中にキリストが内住されている事→私は神の子、自我はずでにキリストとともに十字架で死んでいる 主に日々明け渡して生きよう
- 3、「主よ、私を謙遜な神の器として下さい 聖霊様が私の内でも外でも自由に働いてください」⇒2月の祈り